地質ニュース557号，64－65頁，2001年1月
Chishitsu News no.557, p.64－65, January, 2001

北京の小さな地質系博物館
－中国古動物館－

村　尾　　智[1)]

北京市の西，北京動物園の南側を画す西直門外大街に三里河路が突きあたるT字路に立つと，庭に恐竜のレプリカが置いてある建物が目にとまる．ひっそりとしている上，通りよりも奥まった所に門があるので良く見ないとわからないが，これは中国科学院に付属する「中国古動物館」という博物館である(写真1，第1図中央部の14番)．西直門外大街側から門のところまで行くとチケット売場があるが，そこに人がいない場合は建物の正面入り口から中に入ってよい．入るとすぐ右側に化石の展示室があり，係員が数名立っている．

化石展示室は三階建てで，巨大な首の長い恐竜が中央の吹き抜けを占めている(写真2)．四川省合川県で発見された*Mamenchisaurus hoechuanensis*という155Maの恐竜とのこと．展示室の一階は主に魚類化石で占められており，中国各地，特に雲南のデボン系から発見された見事な標本が並んでいる．ここでは，古生代の魚類が進化し，中生代になって上陸した事を暗示する展示方法になっている．二階は恐竜コーナーで，内モンゴルから出土した120Maの*Probactrosaurus gobiensis*など，復元した骨格と足跡や卵の化石がある．恐竜の他に人目を引くのは亀で，中には広東省南雄で発見された体長2mの*Nanhsiungchelys wuchingensis*という大亀の化石もある．三階は哺乳動物のコーナーになっており，初期の小型哺乳類の化石にはそれぞれにルーペが添えられるなど，見学者のための心配りがなされている．新生代の様子を描いた壁画にはパンダも登場する(写真3)．

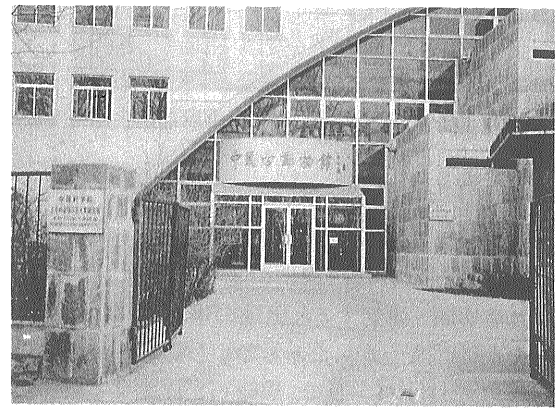

写真1　中国古動物館の入口．

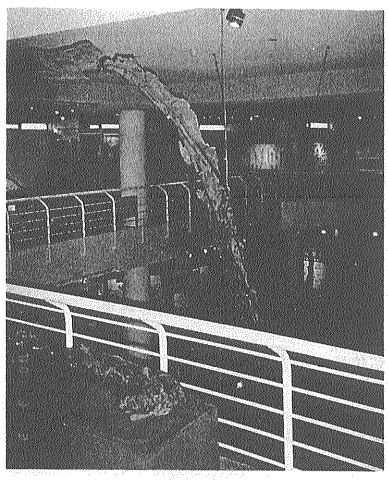

写真2
吹き抜けに置かれた恐竜．

中国古動物館は全体に小じんまりした博物館で知名度はあまり高くないようだが，標本の状態が良く，番号もきちんと振られており，管理が行き届いているようにみえる．同館は地質，資源関係者がよく訪問する中国地質科学院に比較的近いので，北京に出張して余裕のある方は寄ってみてはいかがだろうか．正確な住所は西直門外大街142，見学時間は9：00～16：00，休館日は月曜日，2000年春の時点で入館料は10元である．

1) 地質調査所　資源エネルギー地質部

キーワード：北京，古生物，博物館

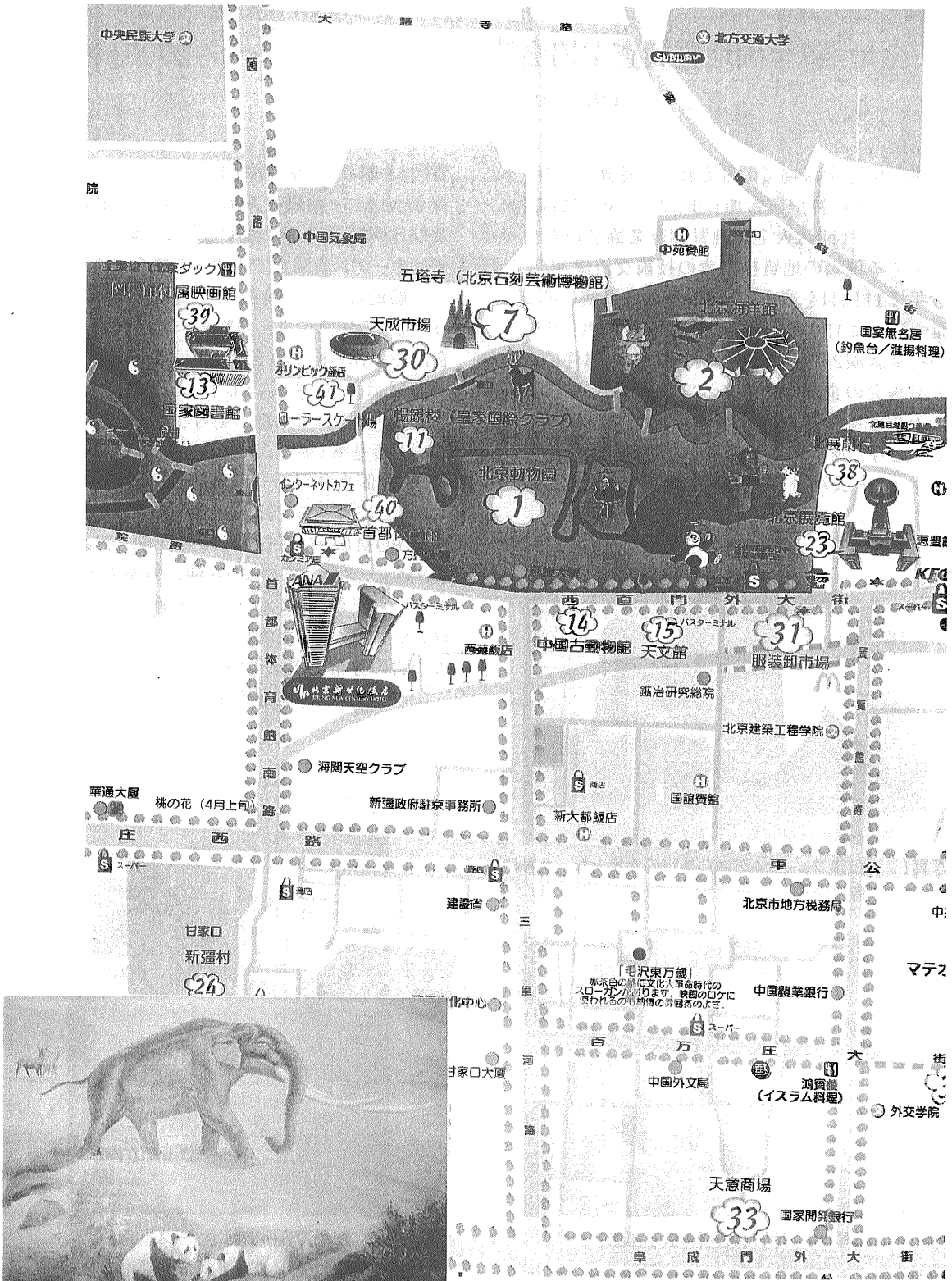

写真3　三階，新生代コーナーの壁画．

第1図　中国古動物館とその周辺の地図
（北京新世紀飯店パンフレットより）．